

# 政務活動費成果届出書

届出者 小栗 佳仁

○使途項目 (○をつける) 調査研究・研 修・広 報・資料作成・資料購入

○タイトル

ひきこもり支援フォーラム  
～不登校・ひきこもり者のリカバリーと対話～

○目 的 (計画書の目的欄をそのまま記載)

国のひきこもり支援施策の方向性から地域共生社会の実現に向けて学び、山口県の支援施策と宇部市の連携、宇部市と具体的な先進支援のNPO法人ふらっとコミュニティの「ひきこもり支援の現状」を理事長の山根俊恵氏の講演から宇部市との連携を学ぶことで、県・自治体・不登校ひきこもり支援を当市でも進めたい。

山根俊恵理事長は、山口大学で「閉じこもり状態をもたらす要因の究明」や「長期ひきこもりの家族心理教育からのアウトリーチ・居場所通所支援の実際」など教授を務め、現在の理事長としてマスコミを利用して宇部市の「不登校・ひきこもり相談」「ひきこもり支援」の重要性などを訴えるなど活躍し、山根モデルとしてひきこもり支援を実践している。

また、「ひきこもり」診療の世界的な第一人者であられる斎藤環教授による「ひきこもりの対話的支援」講演から、社会的・医学的側面を活かした支援を学ぶと共に、ひきこもり支援で重要な家族会や当事者会のシンポジウムによって貴重な経験談を学ぶ。

○結 果 (目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。)

【目標は達成できた】

○ひきこもり支援施策の方向性と地域共生社会の実現に向けて (厚生労働省 安西慶高)

- ・自治体によるひきこもり実態調査：一般市では64/795(8%)で実施⇒聞き取り、アンケート
- ・民生委員、児童委員、保健師さん等にレクチャー⇒実態調査⇒支援に繋げる(自治体取組例)
- ・アウトリーチ型支援を実施するための相談員配置の必要性
- ・地域におけるひきこもり支援の強化予算案：11.5億円 サポート事業強化予算案：4.5億円

○山口県におけるひきこもり支援の施策について (山口県健康福祉部 福田剛)

- ・段階に沿った支援：Step1：家族へのアプローチ(家族と本人の関係改善) Step2：本人へのアプローチ(家族以外との関係づくり) Step3：集団の場への参加 Step4：段階的社会的参加

など施策【一般的な取組でした】

○新たなひきこもり支援体制 ～話を聞いて終わり・・・ではない家族支援～

(NPO法人ふらっとコミュニティ 理事長 山根俊恵)

①きっかけは様々：不登校(いじめ、フリースクール後など)、受験・就活失敗、人間関係きっかけ毎の支援方法が必要で、「生きづらさ」に対する支援

②県の対応では総論的で、「言いつばなし」「聞きつばなし」のため長期化する。

③家族は「どうしたら良いのか教えてほしい」「対応方法を学びたい」と希望しているので、家族会の参加者が主体的に学び取って成長していく家族会にする。

確認欄	議長	管理委員長



④第一段階の家族支援で大半がストップしてしまう。第二段階の「本人支援」に移行する。

⑤ひきこもり支援の段階と支援システム（山根モデル）

**家族へのアプローチ** 相談面接⇒家族心理教育基礎編（6回）⇒家族心理教育実践編（1回/月）

稀薄な家族関係

⇒

家族関係の改善 ↙

**本人へのアプローチ**

（アウトリーチ、家族面接、個別面接）⇒集団へのアプローチ（居場所支援、個別面接）⇒段階的社会的参加（就労支援、個別面接、家族面接）

⑥宇部市：福祉なんでも相談窓口（市内15箇所）⇒NPO法人ふらっとコミュニティに依頼

宇部市：補助金800万円でNPO法人ふらっとコミュニティに委託

⑦オープンダイアログの原則（開かれた対話）での対応 フィンランド（1980年代前半）

☆即時援助する ☆人間関係を重視する ☆柔軟性と機動性による支援 ☆責任を持って関わる

☆心理的継続性と連続性の関わり ☆不確実性への耐性 ☆対話主義

○本人や家族が求める支援とは【シンポジウム】

・当事者がひきこもった原因から社会復帰までを語り⇒厚労省がコメンテーターを務めた

・コーディネーターは、NPO法人ふらっとコミュニティ 山根理事長

○ひきこもりの対話的支（筑波大学医学医療系社会精神保健学 教授 齊藤環）

①ひきこもりの原因の一つとしての不登校は、学校教育システムの制度疲労が考えられる。

その不登校になる原因は生徒間、生徒と先生のハラスメントなどです。本人の尊厳をいかにサポートするかを考えなくては解決できない。

②不登校対策：「再登校」を目標とせず「どうすればこの子が元気になれるか」を目標とする。

③ひきこもりの診察は誤診が多い⇒統合失調症（発達障害、うつ病など）

④ひきこもり事例は男性が多い（女性は家事手伝いなどにより事例化しにくい）

⑤ひきこもっている人は、たまたま困難な状況にある（まともな人）なので、本来の強みや長所に目を向けるようにする。

⑥「ほっといてくれ」の段階は、親支援をおこない当事者のニーズが変わればステップ（段階）的に支援をおこなう。

⑦家族の基本的な心構え：本人が安心してひきこまれる関係づくり（信頼関係）

⑧ひきこもりと「対話」：対話の不足や欠如からこじれていくので、声を出して言葉を交わす

（SNSなどで代替不可）。議論、説得、尋問、叱咤激励は「対話」ではなく「独り言」。対話の回復は、相互性と共感性を大切にす。また、断絶の場合はまず挨拶の励行から実施。

○提言（半田市に対し、何をどう活用するか。）

・ひきこもり未然防止：いじめ不登校対策を早期に進める。また、人間関係づくりの教育が必要

・ひきこもり実態調査：民生委員さんなどの教育を実施し、実態調査が必要

・気軽に相談できる相談窓口を市内複数箇所に設ける。

・不登校、ひきこもり支援体制システムを早期に立ち上げる。

以上の支援には先進自治体の協力や精神専門医師の協力が必要

○その他（その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。）

クラウドファンディングの返礼品を活用した支援の講演を依頼する。

確認欄	議長	管理委員長

○実績 (別紙に領収書を添付すること)

日にち	時間	内容		金額 (円)	領収書 No.
2月21日	16:08~16:58	乙川~名古屋 (JR武豊線) (乙川⇄宇部新川往復乗車割引券)	乗車券 (往復)	19,200	①
	17:13~20:09	名古屋~新山口 (のぞみ45号)	指定席	6,450	①
	20:22~20:46	新山口~宇部 (JR山陽本線線) 下関行	乗車券		
	21:13~21:25	宇部~宇部新川 (JR宇部線) 新山口行	乗車券		
	宿泊	国際ホテル宇部		7,104	②
2月22日	09:00~09:15	宇部市多世代ふれあいセンター (0.8 km)	徒歩		
	09:30~16:00	ひきこもり支援フォーラム	資料代	2,000	③
	16:00~16:12	宇部市多世代ふれあいセンター ~琴芝駅 (0.6 km)	徒歩		
	16:17~16:32	琴芝~宇部 (JR宇部線) 宇部行	乗車券		
	16:36~16:59	宇部~新山口 (JR山陽本線) 岩国行	乗車券		
	17:16~17:46 17:52~20:10	新山口~広島 (さくら564号) 広島~名古屋 (のぞみ52号)	指定席	6,340	①
	20:23~21:08	名古屋~乙川 (JR武豊線)	乗車券		
			合計	41,094	



令和2年 2月 26日

領収書等貼付用紙

議員名 小栗 佳仁

タイトル

ひきこもり支援フォーラム  
～不登校・ひきこもり者のリカバリーと対話～

2枚中 2枚目

※報告書における領収書 No.が分かるように貼り付けること。

③ フォーラム資料代

領 収 証	小栗 佳仁	様 No. _____
★ 7,000.-		
内 訳	但 フォーラム資料代として	
現金		
小切手	2020年 2月 22日 上記正に領収いたしました	収入印紙
手形	登録番号	
消費税(10%)	〒755-0038 宇部市海南町2番58-1号	
消費税(8%)	特定非営利活動法人	
内税額計	ふらっとコミュニティ	
	TEL・FAX 0830-21-1552	

# 政務活動費成果届出書

届出者 小出 義一

○使途項目 (○をつける) **調査研究**・研 修・広 報・資料作成・資料購入

○タイトル

ひきこもり支援フォーラム  
～不登校・ひきこもり者のリカバリーと対話～

○目 的 (計画書の目的欄をそのまま記載)

国のひきこもり支援施策の方向性から地域共生社会の実現に向けて学び、山口県の支援施策と宇部市の連携、宇部市と具体的な先進支援のNPO法人ふらっとコミュニティの「ひきこもり支援の現状」を理事長の山根俊恵氏の講演から宇部市との連携を学ぶことで、県・自治体・不登校ひきこもり支援を本市でも進めたい。

山根俊恵理事長は、山口大学で「閉じこもり状態をもたらす要因の究明」や「長期ひきこもりの家族心理教育からのアウトリーチ・居場所通所支援の実際」など教授を務め、現在の理事長としてマスコミを利用して宇部市の「不登校・ひきこもり相談」「ひきこもり支援」の重要性などを訴えるなど活躍し、山根モデルとしてひきこもり支援を実践している。

また、「ひきこもり」診療の世界的な第一人者であられる齋藤環教授による「ひきこもりの対話的支援」講演から、社会的・医学的側面を活かした支援を学ぶと共に、ひきこもり支援で重要な家族会や当事者会のシンポジウムによって貴重な経験談を学ぶ。

○結 果 (目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。)

【目標は達成できた】

○ひきこもり支援施策の方向性と地域共生社会の実現に向けて (厚生労働省 安西慶高)

◎就職氷河期世代支援プログラム

- ①きめ細かな伴奏支援型の就職相談体制の確立 ②受けやすく即効性のあるリカレント教育の確率
- ③採用企業側の受入れ機械の増加につながる環境整備 ④地域若者サポートステーションの取組強化

◎地域共生社会の実現・必要性 (市町村の包括的支援体制の構築)

- ①断らない相談支援 ②参加支援 (社会とのつながりや参加の支援) ③地域づくりに向けた支援

○山口県におけるひきこもり支援の施策について (山口県健康福祉部 福田剛)

・段階に沿った支援: Step1: 家族へのアプローチ (家族と本人の関係改善) Step2: 本人へのアプローチ (家族以外との関係づくり) Step3: 集団の場への参加 Step4: 段階的社会参加  
など施策【一般的な取組でした】

○新たなひきこもり支援体制 ～話を聞いて終わり・・・ではない家族支援～

(NPO 法人ふらっとコミュニティ 理事長 山根俊恵)

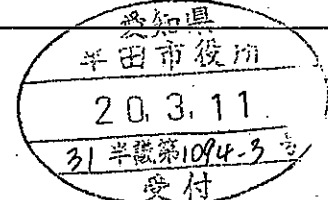
①「さまざまな生きづらさ」を理解して関わる

精神疾患の可能性、精神症状、発達の特性などをアセスメント

②暴力の対応

精神福祉法における入院は「明らかな精神疾患」が対象となる

確認欄	議長	管理委員長



申し合わせ様式第2号

③家族（あるいは支援者）コミュニケーションの改善が必要

家族の関係性をアセスメント、長期化のパターン、先回り行為を止める。

④自分の価値観を押し付けない

呪いをかけない、メッセージで伝える

⑤目標設定を下げる

「働け」でなく、「家でできること」を増やしていく

⑥支援者として

共存関係にならざるを得ない家族の思いを理解する

○本人や家族が求める支援とは【シンポジウム】

- ・当事者がひきこもった原因から社会復帰までを語り⇒厚労省がコメンテーターを務めた
- ・コーディネーターは、NPO 法人ふらっとコミュニティ 山根理事長

○ひきこもりの対話的支援 (筑波大学医学医療系社会精神保健学 教授 齊藤環)

①ひきこもりの原因の一つとしての不登校は、学校教育システムの制度疲労が要因。

不登校になる原因は生徒間、生徒と先生のハラスメント。本人の尊厳をいかにサポートするかを考えなくては解決できない。

②不登校対策は、「再登校」を目標とせず「どうすればこの子が元気になれるか」を目標とする。

③ひきこもり事例は男性が多い（女性は家事手伝いなどにより事例化しにくい）

④ひきこもっている人は、たまたま困難な状況にある（まともな人）なので、自分自身の状況を肯定的に受け入れられるようになりこと。就労・就学が解決ではない。

⑤「ほっといてくれ」の段階は、親支援をおこない当事者のニーズが変わればステップ（段階）的に支援をおこなう。

⑥家族の基本的な心構え：本人が安心してひきこまれる関係づくり（信頼関係）

⑦ひきこもりと「対話」：対話の不足や欠如からこじれていくので、声を出して言葉を交わす

（SNSなどで代替不可）。議論、説得、尋問、叱咤激励は「対話」ではなく「独り言」。対話の回復は、相互性と共感性を大切にする。また、断絶の場合はまず挨拶の励行から実施。

⑧対話の回復は、挨拶・誘い・お願い・相談

○提言 (半田市に対し、何をどう活用するか。)

- ・ひきこもり未然防止：いじめ不登校対策を進める。また、人間関係づくりの教育が必要
- ・ひきこもり実態調査：民生委員など関係者への研修と実態調査が必要
- ・気軽に相談できる相談窓口を市内複数箇所に設ける。
- ・精神専門医師を交えた不登校、ひきこもり支援体制システムを立ち上げる。
- ・先進自治体との連携を図る

○その他 (その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。)

確認欄	議長	管理委員長

○実績 (別紙に領収書を添付すること)

日にち	時間	内容		金額 (円)	領収書 No.
2月21日	16:08~16:58	乙川~名古屋 (JR 武豊線) (乙川台宇部新川往復乗車割引券)	乗車券 (往復)	19,200	①
	17:13~20:09	名古屋~新山口 (のぞみ45号)	指定席	6,450	①
	20:22~20:46	新山口~宇部 (JR 山陽本線線) 下関行	乗車券		
	21:13~21:25	宇部~宇部新川 (JR 宇部線) 新山口行	乗車券		
	宿泊	国際ホテル宇部		5,824	②
2月22日	09:00~09:15	宇部市多世代ふれあいセンター (0.8 km)	徒歩		
	09:30~16:00	ひきこもり支援フォーラム	資料代	2,000	③
	16:00~16:12	宇部市多世代ふれあいセンター ~琴芝駅 (0.6 km)	徒歩		
	16:17~16:32	琴芝~宇部 (JR 宇部線) 宇部行	乗車券		
	16:36~16:59	宇部~新山口 (JR 山陽本線) 岩国行	乗車券		
	17:16~17:46 17:52~20:10	新山口~広島 (さくら564号) 広島~名古屋 (のぞみ52号)	指定席	6,340	①
	20:23~21:08	名古屋~乙川 (JR 武豊線)	乗車券		
			合計	39,814	



領収書等貼付用紙

議員名 小出 義一

タイトル

ひきこもり支援フォーラム  
～不登校・ひきこもり者のリカバリーと対話～

2枚中 1枚目

※報告書における領収書No.が分かるように貼り付けること。

- ① JR 乙川⇄JR 宇部新川 (往復乗車割引)、名古屋⇒新山口 (のぞみ指定券)  
新山口⇒名古屋 (さくら、のぞみ指定券)

領収書 No. 531407 16 I  
 金額 ¥31,990  
 2020年 2月12日  
 東海旅客鉄道株式会社  
 半田駅 現金出納社員  
 印紙税申告納付につき名古屋市中村区務署承認済

- ② 国際ホテル宇部宿泊代 割引クーポン (申込時一人に適用)

No. 105777-1

領収書

Receipt

お名前 (Name)

小出 義一

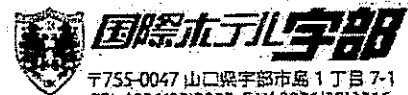
様

金額 ¥ 5 8 2 4

入金内訳 (現金) (クーポン) (クレジット) (5,824)

10% 対象 (税込) ¥

8% 対象 (税込) ¥



〒755-0047 山口県宇部市島1丁目7-1  
TEL 0836(32)2323 FAX 0836(32)2316

INTERNATIONAL HOTEL UBE



発行月日 (Issue)

2020/02/22

2部屋予約のうち1部屋分(小出議員分)のみネット予約割引が適用されています。

令和2年 2月 26日

領収書等貼付用紙

議員名 小出 義一

タイトル

ひきこもり支援フォーラム  
～不登校・ひきこもり者のリカバリーと対話～

2枚中 2枚目

※報告書における領収書No.が分かるように貼り付けること。

③ フォーラム資料代

領 収 証	小出 義一 様	No. _____
* 7,200		
内 容	フォーラム資料代	
単 位	円	
小切手	〇	
手 形	〇	
消費税(10%)		
消費税(6%)		
内税合計		

収入印紙

平成 27年 2月 12日 上記正に領収いたしました

登録番号

T755-0038 宇部市海南町2番58-1号  
 特定非営利活動法人  
 くらっとコミュニティー  
 TEL・FAX 0836-21-1552